B-19 ナミニクバエの生理的特性、特に休眠性について

○森林敦子、林利彦、倉橋弘（国立予防衛生研究所、昆虫医科学部）

Physiological property of diapause of *Parasarcophaga similis*

Moribayashi A., Hayashi T. and Kurahashi H.

センチニクバエは、赤道地帯より東アジアを中心に北上し分布域を広げ、一方ナミニクバエは、ユーラシア大陸の北方より南下したものと予測されている。前年度の当学会において札幌近郊で捕集したナミニクバエと東京で捕集し当研究所において継代飼育しているセンチニクバエの休眠性について比較検討し地理的条件（日長、温度）よりその結果について考察した。センチニクバエは16時間日長で0%、14時間日長で50%の休眠率を示したが、ナミニクバエは、成虫が11時間の短日条件で飼育されてもその後の幼虫、蛹は16時間日長でも40%、14時間日長で70%休眠した。

今回、長崎、東京より新たにナミニクバエを捕集しそれらの休眠性を調べ札幌のものと比較した。長崎、東京、札幌のナミニクバエの最大休眠率は、85%、100%、100%で、それぞれの臨界日長は、長崎で11時間30分、東京で12時間30分、札幌で13時間30分であった。得られた結果と地理的特性からナミニクバエの休眠性について考察する。

B-20 長崎地方におけるベッコウバエの生活史

○倉橋 弘（予研、昆虫医科学部）、末永 敏（長崎大学熱研、資料室）

Life history of *Dryomyza formosa* (Wiedemann) in Nagasaki Pref.

Kurahashi, H. and Suenaga, O.

ベッコウバエ科 *Dryomyzidae* の中で最大のサイズをもつ日本産のベッコウバエ *Dryomyza formosa* (Wiedemann) は人糞、獣糞などによく集まるが、その生活史はよく判っていない。長崎地方でクロバエ類の生態調査の際、成虫捕集のための腐肉トラップ（予研式）でこのハエがいくらか捕集された。1990-94年の5年間の調査の結果から、本種の生活史の一部が浮かび上がってきた。年間の成虫出現消長は低地（5-500m）では春と秋の2山型、高地（1000m）では夏を中心に1山型を示した。雌成虫の翅破損度の年変化は春に新鮮な成虫が羽化し、晩秋に向かって老化していくことを示した。交尾雌率、卵巣成熟雌率も夏前ではいずれの標高でも0%であったが、晩秋に向かって高くなった。しかも、晩秋低地で捕集されたほとんど全部の雌が交尾済みで、成熟卵巣を持っていた。これらのことから、標識再捕獲法等による直接証明は実施し得なかったが、本種もオオクロバエと同じく年1化性で、低地と高地を標高差移動している可能性が大きいことが判った。腐肉トラップに成虫は捕集されたが、幼虫が飼育トラップ内の腐肉で発育した形跡は認められなかったので、本格的に本種の生活史を調査するためには先ずその発生源が何であるのか知る必要がある。